

戦跡紹介

山里曲輪石垣の弾痕

(大阪市中央区大阪城公園 天守閣の北)

大阪城の山里曲輪付近の石垣に、大きいものでは直径30cmくらいから小さなものまで、無数の弾痕が残っています。太平洋戦争当時の山里曲輪には、戦争資料館が建ち、1945(昭和20)年頃には女子防空通信隊員の宿舎になっていたため人の出入りも多く、それが米軍機の機銃掃射の目標となった可能性があります。いつ撃たれたものかははっきりしませんが、日本の城によく残っている、火縄銃による浅く小さな弾痕とは違うことから、機銃掃射によるものと推定されています。



ピースおおさか友の会 会員募集のご案内

戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝え、“平和の首都”大阪の実現をめざす『ピースおおさか友の会』会員を募集しています。

会員特典	◇1年間無料で入館でき、常設展示や特別展示などを自由にご覧になれます。 講演会・特別展示等の催し案内や館報「ピースおおさか」を送付します。
会費	◇個人会員 年額2千円 ◇団体会員 年額1万円(1口) ※何口でも結構です。
申込方法	◇直接、事務局へ会費を添えて申込、若しくは現金書留で郵送 ◇銀行振込(りそな銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行) ◇郵便局振込

ピースメッセージ

ピースおおさかに来られた方から寄せられた
ご意見・ご感想の一部をご紹介します。

- 学校で習ったことのない資料もあってわかりやすかったし、展示物なども本物が見れて戦争をやってはいけないと思いました。大阪市(12歳)
- このような戦争の歴史を伝えていく取り組みはとても良いと思います。もっと勉強して歴史を知り、これから平和に2度と戦争の起こることのない世の中になってほしいと思いました。 滋賀県野洲市(20歳)
- 「刻の庭」が完成して初めて来ました。平和への願い、希望が若い世代に確かに受け継がれていると感じました。 兵庫県川西市(27歳)
- 戦争や差別によって平気で人を傷つけることが許せないと思った。大人も子どももピースおおさかに来て心で感じてほしいと思う。 大阪府守口市(46歳)
- 戦争を経験したものとしても絶対に戦争はこりごりです。平和な日本でありますように。 大阪市(79歳)
- インターネットで調べて来館しました。戦争は愚か者のすることです。(原文は英語) ポリビア(25歳)
- 中国人から観て、客観的に戦争を捉えているとても素晴らしい資料館だった。(原文は英語) 中国(25歳)
- ピースおおさかの展示はとても良くできている。ここで色んなことを学べる。(原文は英語) チェコ(26歳)
- 素晴らしい展示でした。ありがとうございました。人々が教訓を得て、2度と間違いを犯さないように願うばかりです。(原文は英語) タイ(30歳)
- “戦争”をあらゆる側から観ることのできる展示でした。とても勉強になりました。(原文は英語) 韓国(31歳)

寄贈品紹介

●戦火を浴びた「手提げ金庫」

1945(昭和20)年3月13～14日の第一次大阪大空襲で焼かれたもの。寄贈者はその空襲で母と弟を失いました。寄贈品は焼け落ちた家屋から見つかった耐火金庫の中に入れていたため、かろうじて原型をとどめていましたが、高熱で塗装がはがれ、内部の書類は触るとバラバラと崩れるような状態でした。戦後は工具入れなどに使われていましたが、その工具のひとつが同じく焼夷弾に焼かれた「くぎ抜き」で、現在、刻の庭(ときのにわ)のモニュメントに埋め込まれ、あの戦争の記憶を今に伝えています。



角田 泰男氏 寄贈
(サイズ:170×220×110mm)

ピースおおさか ミュージアムショップ オリジナルグッズの紹介

常設展示を解説した「展示のてびき」や来館記念・お土産として「缶バッチ」「キーホルダー」「Tシャツ」「ランチクロス」「フィールドワーク 大阪城周辺に残る戦争の傷あと」(マップ・解説)など、オリジナルグッズを販売しています。



ピースおおさか ご利用案内

- ◆団体見学の申込受付
- ◆戦争と平和に関する展示・映画上映
- ◆「空襲体験のお話」講師の紹介
- ◆ビデオ・DVD・図書資料の閲覧
- ◆平和学習用16ミリ映画・ビデオ・写真パネル・体験画の団体貸出
- ◆戦争と平和に関する資料の寄贈受付

資料寄贈者 2009.4.1～2010.4.10(敬称略)

団体

NPO信愛塾	対馬丸記念館
NPOみなと	都留文科大学大学院
尼崎市立地域研究史料館	東北歴史財団
大阪市史編纂所	独立行政法人平和祈念事業特別基金
大阪樟蔭女子大学地域文化センター	西宮市原爆被害者の会
大阪大学アジア太平洋研究会	ピース・ウィング長崎
大阪府教職員組合	非核の政府を求める大阪の会
沖縄県宜野湾市教育委員会	ひめゆり平和祈念資料館
沖縄県平和祈念資料館	ヒューライツ大阪
学校法人きのくに子ども村学園	広島第一高等学校有朋会45期追悼の会
関西大学生生活協同組合	広島平和記念資料館
樹花舎	平和のための博物館・市民ネットワーク
原爆文学研究会	明治学院大学国際平和研究所
住中二十一期生傘寿記念文集実行委員会	予科練平和記念館
全国疎開学童連絡協議会	立命館大学国際平和ミュージアム
専修大学学長室企画課	リバティおおさか
戦時下の小田原地方を記録する会	和歌山市立博物館
戦争と平和を考える集い実行委員会	

個人

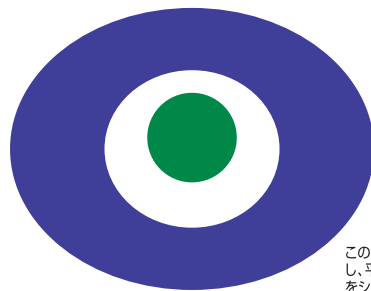
足立整鑑	川俣千手	角田泰男	苗村七郎	広瀬 保	向井正人
石原仲次郎	木戸 湊	相内勝子	長岡喜春	藤丸京子	森 孝一
稲見正子	京盛正雄	多喜端信義	中尾一雄	藤原立子	数田まつ子
遠藤敬一	酒井建治	竹岡不二雄	長塚安之	松門猛治	山_章弘
大野 俊	坂井森太郎	武澤 宏	長嶋喜久子	松山香代子	山田長昭
大林秀光	佐々木照子	竹谷 恵	中村 誠	三島佑一	山田多恵子
沖 久治	佐々木誠	竹本歳子	中村盛義	水速信孝	山田ミサエ
小倉孝美	佐々木誠継	種子 明	中山純雄	水知悠之介	吉野興一
加藤泰子	清水 剛	玉木英子	野田邦雄	宮 まさ子	
菊田誠二	菅 富士夫	内藤義美	服部良太郎	宮田幸彦	

資料収集にご協力ください

ピースおおさかでは、戦争と平和に関する資料及び資料に関する情報を収集し、調査・研究に役立て、後世に伝えていくため大切に保存しています。この意義をご理解いただき、資料収集にご協力くださいますようお願いいたします。

●問い合わせ先●ピースおおさか

〒540-0002 大阪市中央区大阪城2番1号
TEL.06-6947-7208 FAX.06-6943-6080



ピースおおさか
OSAKA INTERNATIONAL PEACE CENTER

2010
(平成21) 6/1
No.41

編集・発行／財団法人 大阪国際平和センター
〒540-0002 大阪市中央区大阪城2番1号
TEL.06(6947)7208 FAX.06(6943)6080
ホームページ <http://www.peace-osaka.or.jp>

このマークは、宇宙・地球・大阪を示し、平和が大阪から発信されることをシンボライズしたものです。

新理事長・新館長就任ご挨拶

このたび四月一日付でピースおおさかの理事長に就任いたしました金児 暁嗣です。これまで、三十七年間、大阪市立大学在任中は、皆様方の一方ならぬご懇情を賜り厚くお礼申し上げます。

平和の発信地ピースおおさかの一層の充実が実現できますよう誠心誠意努力いたす所存でございます。どうぞ、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



金児 暁嗣 新理事長

こんにちは!4月1日から館長(常務理事兼務)に就任いたしました倉田清です。2度にわたる大戦で、幾千万人もの尊い命が失われ、今なお地域紛争が頻発し、多くの人々が生存の危機にさらされています。ピースおおさかは、単に戦争のない社会をめざすばかりではなく、飢えや貧困、環境破壊や人権抑圧など人々が豊かに生きられる平和な社会の実現にむけて大阪が積極的に貢献するため設置された大阪の良心というべき施設です。微力ですが、平和を愛する多くの人々とともにがんばります。よろしくお願いします。



倉田 清 新館長

特別展

「焦土大阪～写真で見る大空襲」開催中!

太平洋戦争末期、1945(昭和20)年3月13～14日に、米軍のB29爆撃機の大編隊により大阪市の中心部は火の海となり、それを皮切りに大阪は幾度も大規模な空襲を受け、焦土と化しました。近年、その被災直後の新たな写真の発見や、ピースおおさか所蔵の空襲関係写真資料の整理・検証がすすむなど、大阪大空襲の視覚的展示を充実させることが可能となりました。

写真は「物言わぬ証言者」ですが、にもかか



千日前通りから戎橋を望む (撮影:中山純雄さん) 中央の建物は大阪松竹座

わず強いメッセージ性を持っています。しかし、もし被災直後の写真に写っている、焼け残った建物や橋、今も使われている道路などの名を明らかにしていけば、人々はより身近に感じ、その平和へのメッセージ性はいっそう増すに違いありません。

今回の特別展は、メッセージ性を高めることを目的として、詳しい検証を経た写真資料を主として展示することにより、大阪大空襲の全貌を明らかにする試みです。この特別展を通じて、あらためて戦争の無意味さと平和の意味を考えるひとつの機会となることを願っています。

この特別展では、戦後まったく未発表だった、つまり65年ぶりに明らかにされた大阪・戎橋界隈の空襲被災後の惨状を写した写真【上の2枚】も公開され、話題となっています。テレビや新聞にも多く取り上げられた結果、それまで「ピースおおさか」を知らなかった人たちからも、問い合わせの電話が相次ぎ、職員一同、応対に汗を流すこととなりました。



展示事業

特別展

「第五福竜丸～ビキニ水爆実験から55年」

期 間：5月14日(木)～9月20日(日) 参加者：19,949名

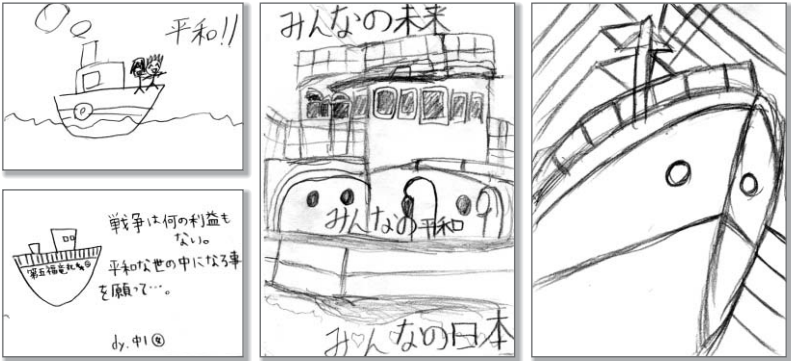
協 力：東京都立第五福竜丸展示館

1954(昭和29)年3月1日未明、第五福竜丸(遠洋マグロ漁船)は太平洋のビキニ環礁沖で、アメリカの水爆実験により被爆しました。船は放射能を大量に含んだ「死の灰」を浴び、乗組員23名全員が被爆し、半年後に無線長の久保山愛吉さんが亡くなりました。

この事件をきっかけに、日本各地で原水爆を禁止する運動が occurred が、事件後も米ソなどの核兵器保有国は同様の核実験をくり返し、実験地周辺の放射能被害は続きました。また、核兵器の脅威は冷戦後の現在でさえ、人類の上に重くのしかかっています。

この特別展では第五福竜丸の被災を中心に、現地周辺の島民の被害も含めて、パネルおよび現物資料で紹介し、核兵器の非人道性と平和の尊さについて考えました。

会期中は「第五福竜丸のイラストを描いて、平和のメッセージを添えよう」というコーナーに、約850件の応募がありました。以下はほんの一例です。



・平和は"みんな"で作るもの。
みんなの笑顔が続きますように。
・ずーっときれいな空を私の子供や孫にもみせてあげたい。
・戦争なんかもう二度と起こって欲しくない、だって好きな人にも逢えないから。
・核爆弾だけでなく、人殺しの道具全て廃絶してほしい!
・「核廃絶」すべてこの世からなくなりますように。
1人の私ができることは現実を知り、祈ること。
国と国の解決のために戦力はいらない。

特別展

「戦争と学校～教室から消えた自由」

期 間：10月6日(火)～2月21日(日) 参加者：28,774名

教育とは人間一人ひとりが本来持っている可能性を豊かに開花させる営みであり、学校はその最も重要な場のひとつです。そしてその開花は本来、自由という光のなかで促されなければなりません。ところが日本の過去の一時期、戦争の暗い影がその光を遮ってしまった時がありました。

1931(昭和6)年から15年にわたる長い戦争の時代、特に日中戦争から太平洋戦争にかけて、学校では授業に戦争の色が濃くなり、末期になると小学生は空襲を逃れて疎開し、中学生は軍需工場で働き、大学生は学徒出陣で戦場に向かいました。

戦争により学校からどのように自由がなくなっていったのか、子どもや青年たちはどんな生活をおくり、どのような気持ちでいたのか、当時の写真や資料で明らかにし、戦争と平和の意味について考えるひとつの機会とするため開催しました。

この特別展では入口の看板前に据えた、重さ450キロの「奉安庫」がひときわ目を引き、職員4人がかりで大汗をかいて運んだ苦労が報われました。また、38式歩兵銃の重さと長さを体験できるコーナーでは、同重量・サイズの模擬銃を手取るのが大好評で、すぐに擦り切れてしまい、3度も作り直すなど嬉しい悲鳴を上げることとなりました。



16ミリ映画・ビデオ・写真パネルの貸出

地域や学校での平和学習に、16ミリ映画フィルムやビデオ・写真パネルをご利用ください。無料で8日間利用できます。

ピースおおさか2009(平成21)年度の事業報告

4月より3月までの主な事業の様子を報告します

第16回 日本平和博物館会議開催 日 時：11月11日(水)～12日(木)

ピースおおさかにて、定例会(協議事項・聴取事項)、大阪城内戦跡ウォークなどが加盟館9館の参加者を迎えて行われました。その後、核廃絶にむけた共同アピールが採択されました。

－ 世界平和記念日にあたり共同アピール －

今、世界には平和への変化の兆しがあらわれている。

21世紀に入ってもなお、核兵器が存在し続け、紛争、差別、貧困、生態系の危機など、様々なかたちをした暴力という暗雲に包まれていた世界に、一筋の光が差し込むようになった。

その光をもたらしたのもこそ、2009(平成21)年4月5日、チェコのプラハで行われた、オバマ米大統領の演説である。大統領は「核兵器のない世界」は実現可能であると高らかにうたい、とりわけ、「核兵器を使用した唯一の核保有国として、米国には行動すべき道義的責任がある」との言葉は、我々、被爆国の国民を勇気づけ、その核廃絶への信念を改めて

確かなものとした。

プラハでの核廃絶演説後の9月、国連安全保障理事会は「核兵器のない世界の条件を構築する」ことを全会一致で決議した。しかしながら、その道が険しいこともまた忘れてはならない。

我々、第16回日本平和博物館会議参加メンバーは、オバマ米大統領のプラハでの演説に敬意を表するとともに、核廃絶・恒久平和に向けた取り組みに一層邁進することをここに誓い、共同のアピールとする。

2009(平成21)年11月11日(世界平和記念日)

第16回日本平和博物館会議

大阪・サンパウロ姉妹都市提携40周年記念

平和と歌の交流史

日 時：5月31日(日)午後2時～4時

ナビゲーター：もず 唱平(ピースおおさか理事)

第1部「シンポジウム」

パネリスト：北川 彰久(日伯音楽協会名誉会長)
吉川 謹司(大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長)
常本 一(ピースおおさか専門職員)

第2部「歌は平和の架け橋(ひえつき節は移民がつくった?)」

出 演：成世 昌平

参加者：304人

8・15終戦の日 平和祈念事業

講演会と歌で検証する戦争と平和

日 時：8月8日(土)午後2時～4時

ナビゲーター：もず 唱平(ピースおおさか理事)

第1部 講演会「アジア日系“帰還”移民と戦争」

講 師：大野 俊(九州大学アジア総合政策センター長)

第2部「その日 8/15 大スター

(東海林太郎、小笠原美都子)が歌った流行歌
～赤城の子守唄から十三夜～

出 演：高橋樺子(歌) 田中裕子(ピアノ)

参加者：283人

12・8開戦の日 平和祈念事業

「銃のあとさき」

日 時：12月6日(日)午後2時～4時10分

ナビゲーター：もず 唱平(ピースおおさか理事)

サポーター：常本 一(ピースおおさか専門職員)

第1部 講演会「戦いに学ぶ」

講 師：影山 好一郎(帝京大学文学部教授)

第2部「歌で検証する戦争と平和」

PART I：「もずが枯れ木で～涙で光った鉄砲とは38式銃だった?」
高橋樺子(歌) 田中裕子(ピアノ)

PART II：「平和を紡ぐ人」ちめいど

参加者：166人

ピースおおさかのいろんな形の屋根

平和とは、多様なものが相互に認めあって同時に存在し得る世界であることを表現しています。

企画事業

8・18大阪大空襲 平和祈念事業

焦土大阪～写真で見る大空襲

日 時：3月13日(土)午後2時～4時

新たに発見された空襲の被災写真をもとに、大阪大空襲の実相を明らかにし、空襲の体験者の証言を交え、その体験を語り継ぐ。

講 師：小田 康德(大阪電気通信大学教授)ほか 参加者：300人

教員のための平和学習講座

日 時：8月7日(金)午前10時～4時

平和の視点～ピースおおさかでの2年間の経験から

講 師：永井 亘(柏原東高校教頭)
三寄 淳(布施北高校教頭)

大阪城フィールドワーク

講 師：横山 篤夫(関西大学非常勤講師) 参加者：24人
常本 一(ピースおおさか専門職員)(小・中・高・支援学校等の教員)

ウィークエンドシネマ

ピースおおさかで所蔵している、戦争や平和についての映画を、多くの方々に鑑賞していただくための機会として実施しました。

参加者数：2,211人(毎週土曜 45回上映)

「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」

(12月10日～16日)

①映画上映 「めぐみー引き裂かれた家族の30年」

(12月12日 午後2時～ 参加者数：38名)

②展 示 講堂内パネル展示

フィールドワーク

戎橋界限を歩く

日 時：3月14日(日)

午前9時30分～12時

案内人：水知 悠之介(NPOなにお堀江1500代表理事)ほか 参加者：30人

C展示室「世界は今」コーナー

・グルジア紛争 ・ガザ紛争

講堂内展示コーナー

・大阪空襲 体験画 ・昭和の子どもたち